準化のための調査研究・報告書 (1981, 3), p. 72
10) ボルト強度班: JSSC, 15 (1979) 158, p. 21
11) 山中和夫, 大森靖也: 鉄と鋼, 64 (1978), p. 1162
12) *C. L.* Briant and *S. K.* Banerji: Metall. Trans., 10 A (1979), p. 1151
13) *C. L.* Briant and *S. K.* Banerji: Metall. Trans., 12 A (1981), p. 309
14) 渡辺征一, 大谷泰夫, 邦武立郎: 鉄と鋼, 64 (1978), p. 113
15) *G. F.* Melloy, *P. R.* Slimmon, and *P. P.* Podgursky: Metall. Trans., 4 (1973), p. 2279
16) *J. D.* Hughes and *G. T.* Rogers: J. Inst. Metals, 95 (1967), p. 299

統　計

1982 年の内外鉄鋼業

世界同時不況を背景とした1982年の内外鉄鋼業は，西側先進諸国ではわが国の粗鋼生産 10 年ぶりの1億t割れ，アメリカの 40% を切る低操業，EC の強制減産措置の延長など，いずれも極度の需要不振と大幅減産に見舞われ，この苦境克服が共通の課題であつた．

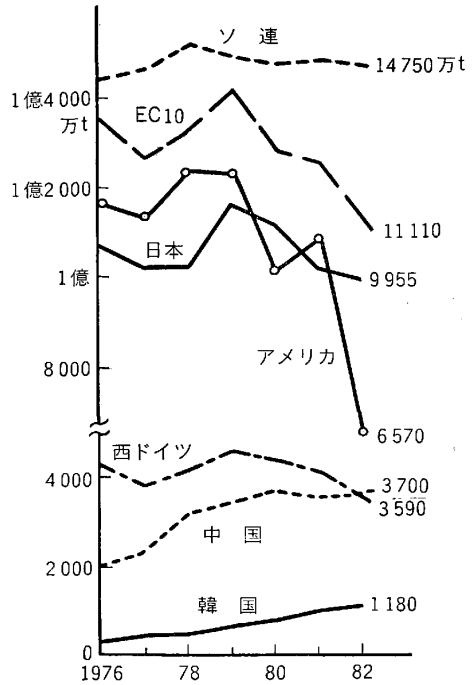
また，共産圏諸国では，ソ連は 1982 年も計画を下回る生産となり，粗鋼 1.5 億 t への回復はできなかつた．ポーランドの生産も引き続き後退した．ただ，中国の生産が順調に回復し，粗鋼生産高で大幅減となつた西ドイツを上回つた．

中進製鉄国でも総じて不振は避けられなかつたが，韓国，台湾の生産は増大した．

この結果，1982 年の世界粗鋼生産高は 6 億 4 500 万 t と前年実績を 9.1% 下回つて7億 t の大台を5年ぶりに割つた．

わが国鉄鋼業は，内外需要の不振と在庫調整の遅れによつて年央以降，大幅減産を余儀なくされ，高炉の相次ぐ休止や雇用調整などが進められた．こうした中で輸入鋼材は増勢をたどり，安値輸入品の市況への影響が問題となつた．

主要国の粗鋼生産推移



世界の粗鋼生産高（単位：100 万 t，%）

順位	国名	1982	増減率 82／81 (%)
1	ソ連	147.5	△ 0.7
2	日本	99.5	△ 2.1
3	アメリカ	65.7	△40.1
		(67.2)	(△40.1)
	EC 10 カ国計	111.1	△11.9
4	中国	37.0	3.9
5	西ドイツ	35.9	△13.7
6	イタリア	24.0	△ 3.2
7	フランス	18.4	△13.2
8	チェコスロバキア	15.0	△ 2.0
9	ポーランド	15.0	△ 4.5
10	イギリス	13.8	△ 9.8
11	スペイン	13.1	1.6
12	ブラジル	13.0	△ 1.5
13	ルーマニア	13.0	0.0
14	カナダ	12.1	△18.2
15	韓国	11.8	9.3
16	インド	11.1	2.8
17	ベルギー	9.7	△21.1
18	南アフリカ (共)	8.6	△ 4.4
19	メキシコ	7.1	△ 6.6
20	東ドイツ	7.1	△ 5.3
	世界合計	645.0	△ 9.1

出所：日本：鉄連生産速報．EC各国：鉄連欧州事務所からの報告．ソ連，北朝鮮：鉄連海外調査部調べ．その他各国：IISI 粗鋼生産速報，国連統計月報，その他資料により推定．
(注) アメリカの( )内の数字は鋳鋼専業者の生産を含む数量で，世界合計はこの数値に基づいて算出されている．表の△印は減少を示す．